ellen allien × Crystal Ball by

shiny crystal mazik

クリスタルボール バイ で輝き放つ
ベルリン発DJエレン・エイリアン

「90年代からドイツのベルリンを拠点にDJ活動を始め、MAYDAYやLOVE PARADEといった歴史的なテクノイベントに参加。近年では日本のイベント、WIRE等出演のアルバムでも高い評価を獲得し、長年にわたってシーンを牽引してきた女性アーティスト、エレン・エイリアン。今となっては数多くの女性DJが活躍しているが、エレン・デ活動を始めた頃はほとんどがDJが男性、というお話だった。

「ベルリンでDJを始めた頃は、女性アーティストは稀少にかなりたち。特にエレクトロのシックシーンでは私でいらっしゃったかもしれない。でも、だからエレクトロのシックミュージックが大好きだったから連帯感はなかったわね。ドイツって西と東が統合、自然に女性の地位が望ましいかを地盤になって、仕事をするにしても男女が最適に働き合っているのが当たり前になっていたし。

大学時代には、ファッションデザイナーを目指したこともあったという経歴。結婚後は音楽業界として活動していくことになったが、現在は自身のブランドELLEN ALLIEN FASHIONも展開し、再びファッションの世界にも足を踏み入れた。

「当時は第一ステップとしてデザインしていく作業が結構おもすぎて自分なりでしまったの。自分自分はどうなると方がしっかりまでた。でも今はファッションへの興味が戻ってきたの。音楽と同じように自分の表現方法のひとつとして捉えてね。DJ「世界各地を周ると、どの国も同じブランドばかりでしょ。だからもっと違うものを提供したくて、自分とブランドを結合することにしたの。最近のベルリンは面白くて小さなブランドやショップが増えてきて、ファッションに対する意識が高まってきて、クラブでもみんな独自のおしゃれを楽しんでいて好奇心旺盛になっているのよ。

DJ、音楽プロデューサー、デザイナー、それに加えて自ら主宰するレーベルSpiritCometを運営しているというE氏。アーティストがDJにとどまらず、世界中で活躍を知恵しまだ活動を広げている。

「興味があるものだけに興味を注ぎたいから、普段はテレビを見ないの。とに

かく人と会って一緒にアイデアや情報を交換していたい、オフィスは自宅の隣にあってデザイナー仲間に囲まれて、刺激しているアーティストもみんな友達。常に神の違いとしたネットワークで、お互いのアイデアをおしゃべりしながらもしゃべることができるいやつがどうかな。すごくおしゃべりの仕組みだけど、毎日自分に強めたりするようが私にとって大変だった。DJで世界各地を周って第3文化に触れたり楽ったりできることはとても興味深いこと。何より、自分が好きなことをやっているから忙しくてもぜんぜん苦にはならないわね。

DJの場所問題は自国に限らず、世界中のクラブで活躍しているDJ。クラブも場所という問題をもつのに、女性だけでなく男性からの支持も厚いはずだが…。

「強かにもそうかもね。DJで各国に行くと、電話番号を渡されたりファンクラブに誘われたりするの。男性の場合もたいていファンの子と遊ぶ気でいるって考えることもあるけど、誘いに乗ることはまずないわ。今は恋人がいないけど

自分で大切なのは自分自身であること。楽曲しかり自分の価値観を押しつけるのではなく、相手がしたいと思うことを理解してあげる。それが男女問わず誰にとってもいい。尊重して、支えてあげることが大事よね。

DJについて、最新のミックスCD「Fabric 34」をリリース。イギリスの最高峰クラブFABRICシリーズの記念盤となる今作は、女性アーティストからDJの最新性やテクノ性、興味を感動が詰まれた傑作。エレンのプレイから男性にはない女性的な魅力が再確認できる。

「私自身も女性の方が大好きよ。女性がの集まりと思い感覚でプレイするし、男性だけでもいいなと思うことは多いけどね。マッチョな男性だって良くないでしょ？笑。この間ちょっとパムはやるからかなりしくなりすぎ。もちろん理系的にはやはり必ずいるけど、理想の相手を見つけることが先決ね。どんなんずっとこの一つを、いろいろな国に行く生活が楽しいからそれを続けていくと思うわ。